

副担任の先生たちだからこそ伝えたい
「子どもたちの自己発揮する姿」があります

月曜日の午後、全職員で日々の保育について語り合い、学び合う「月曜カンファレンス」の時。いつもは担任が中心となって話すのですが、昨日は、担任以外の教師が「子どもたちの自己発揮する姿」を語りました。

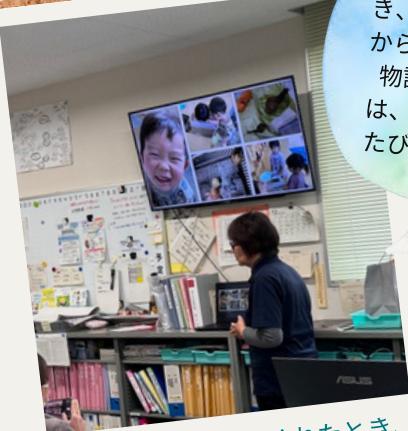
いつも全体を見て子どもたちを支えてくださっている存在だからこそ、気付くことがあります。それは小さなきっかけで、また、4月からこれまでの長い時間をかけて少しづつ見せてくれるようになった子どもたちの姿でした。

担任の教師たちが初めて聞くエピソードもあり、全員で感想を伝え合い、学び多い時間を共有することができました。



保健室を訪れる子たちが発する優しい言葉からも、この子にはこんな優しいところがあると気付かされることがあります。

今の年長の男の子が年少のとき、園に連れてきてくれた一匹から、附属幼稚園のカタツムリ物語は始まりました。その子は、私がカタツムリの話をするたび、ハグしてくれるんです。



冬眠のお手伝いをしてくれたとき、今のカタツムリは四代目だと話したら、年少の子が「僕にもおじいちゃんがいるよ」と言ってくれました。命の循環を伝えています。



預かり保育の時間に始まった年長のクリスマスツリーにもエピソードがたくさん！多くの子が関わって出来上がっていきました



「先生作って」が多かった子も、一緒に作るうちに自信がつき、最近は「ここは僕がやるよ。ここは先生手伝って」と自分でやってみたいことが増えてきました



「自分がやりたいカフェの遊びのスタイルで登園してきました」「家でカリスマックス覚えてきたよ！と男の子たちのダンスが始まりました！」